



2022年鉄鋼及び鉄スクラップ 産業の主なIssue

2022. 7

Korea Iron & Steel Association(KOSA)
Steel Scrap Committee



目次 (INDEX)

1. 粗鋼及び鉄鋼需要産業
 - 1-1 粗鋼生産見通し
 - 1-2 鉄鋼主要需要産業

2. 鉄スクラップ需給動向
 - 2-1 鉄スクラップ需給状況 (2021)
 - 2-2 鉄スクラップ需給見通し (2022)

3. 鉄スクラップ産業関連Issue
 - 3-1 主要建設用鋼材動向
 - 3-2 鉄スクラップ関連動向

A square graphic with a blue geometric pattern of overlapping triangles and polygons. A large white number '1' is positioned in the lower right corner of the square.

1

粗鋼及び鉄鋼需要産業

1-1 粗鋼生産見通し

1-2 鉄鋼主要需要産業

1-1 鉄鋼生産見通し

2022年粗鋼生産能力見通し

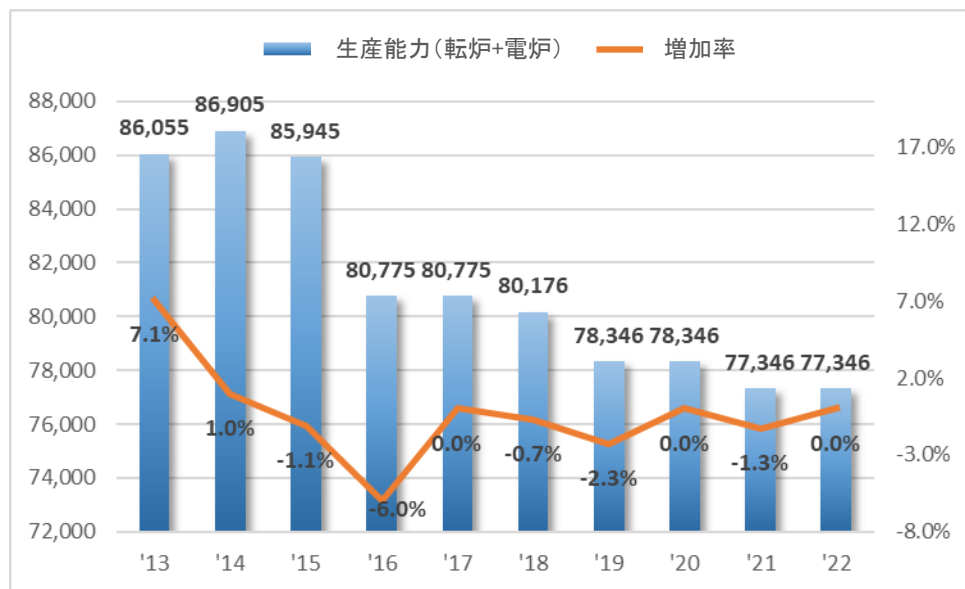
※転炉及び電炉の粗鋼生産能力：前年水準維持

○ 転炉鋼：21年 51,860千t → 22年(F) 51,860千t

○ 電炉鋼：21年 25,486千t → 22年(F) 25,486千t

*20年 一部メーカーの電炉閉鎖による電炉生産能力減少後、同水準維持。

生産能力推移 (単位:千t,%)



製法別生産能力 (単位:千t)

区分	転炉鋼	電炉鋼	合計
13年	52,520	33,535	86,055
14年	54,950	31,955	86,905
15年	54,414	31,531	85,945
16年	51,860	28,915	80,775
17年	51,860	28,915	80,775
18年	51,860	28,316	80,176
19年	51,860	26,486	78,346
20年	51,860	26,486	78,346
21年	51,860	25,486	77,346
22年	51,860	25,486	77,346

1-1 粗鋼生産見通し

2022年 粗鋼生産量見通し

□ 2021年 状況

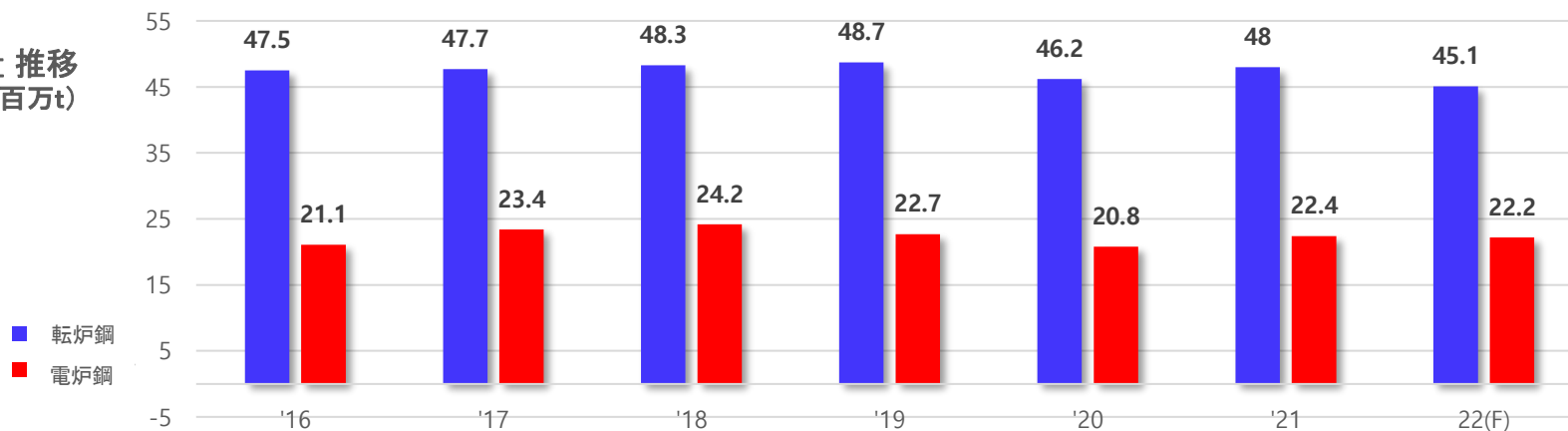
- コロナ19の基底効果による需要産業の急激な内需増加と中国鉄鋼産業の強力な構造調整による鉄鋼材生産増加
- 前年比4.9% 生産量増加、パンデミック以前の水準まで生産量回復、特に電炉鋼は、前年比7.7%増加

□ 2022年 見通し

- ロシア-ウクライナ戦争等でサプライチェーンが損傷され、世界経済成長鈍化等により22年の生産量減少する見込み（前年比 4.4%減少）
- 鉄筋等建設用鋼材需要の増加が続き、電炉粗鋼生産量前年比(-0.9%)が転炉(-6.0%)よりさらに高くなる見通し

区分(百万t)	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年(F)
合計	68.6	71.1	72.5	71.4	67.0	70.4	67.3
前年比(%)	-1.6	3.6	2.0	-1.5	-6.1	4.9	-4.4
転炉鋼	47.5	47.7	48.3	48.7	46.2	48.0	45.1
前年比(%)	-2.0	0.3	1.3	0.9	-5.0	3.9	-6.0
電炉鋼	21.1	23.4	24.2	22.7	20.8	22.4	22.2
前年比(%)	-0.6	10.9	3.6	-6.2	-8.3	7.7	-0.9

製法別 粗鋼生産量 推移
(単位: 百万t)



1-2 鉄鋼主要需要産業

2022年鉄鋼主要需要産業の見通し

- **建設受注**：(年初) 220.6兆ウォン(前年比 4.1% 増加) 見通し / (現在)1~4月 受注金額前年同期比 7.5% ↑ (71.7兆ウォン)
 - (年初)19年以降建設受注の増加傾向が続いているが、22年には基底効果の上昇傾向が大きく減少するものと予想される
 - (現在)再開発・再建築、倉庫・工場建築工事増加 / 公共道路橋梁、発電・送配電等土木工事減少

- **自動車生産**：3,430千台(前年比 0.9% 減少) 見通し / (現在) 1~5月 自動車生産前年同期比 2.6% ↓ (1,451千台)
 - 多様な産業における半導体需要の増加及び半導体の生産に長期間を要する等による半導体供給不足解消が遅延
 - ロシア-ウクライナ戦争で、ロシアの需要縮小、金利引き上げと物価上昇に伴う消費心理の低下による世界完成車市場の回復速度が遅延する見通し。

- **造船受注**：(年初)13百万CGT(前年比 -25.7% 減少) 見通し / (現在) 1~5月韓国造船受注量 前年同期比11.8% ↓ (734万CGT)
 - 世界新造船の発注量が前年比 約 25%減少見込み、国際海事機構(IMO) の環境規制効果によるエコ船舶への入替需要が増加見込
 - 大型LNG運搬船89隻中63隻(71%)、コンテナ船60隻中26隻(43%) 国内造船社が受注

	単位	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年(F)	備考：2022年 現状
建設受注	兆ウォン	154.5	166.0	194.1	212.0	220.6	1~4月：71.7
	前年比(%)	-3.7	7.4	16.9	9.2	4.1	前年同期比 7.5% ↑
自動車生産	千台	4,029	3,951	3,507	3,462	3,430	1~5月：1,451
	前年比(%)	-10.2	-1.9	-11.2	-1.3	-0.9	前年同期比 2.6% ↓
造船受注	万CGT	1,354	999	823	1,749	1,300	1~5月：734
	前年比(%)	69.3	-26.2	-17.6	112.5	-25.7	前年同期比 11.8% ↓



2

鉄スクラップ需給動向

2-1 鉄スクラップ需給状況(2021)

2-2 鉄スクラップ需給見通し(2022)

2-1 鉄スクラップ需給状況(2021)

2021年 鉄スクラップ需給状況

□ 2021年 国内製鋼メーカーの鉄スクラップ需給状況

○ 2021年韓国鉄スクラップの自給率 85.8% [自給率：(国内購入+自家発生) / 自家消費]

- 2021年 国内発生量の減少幅に比べ、国内購入、自家消費の増加幅がさらに拡大し前年比自給率が小幅上昇

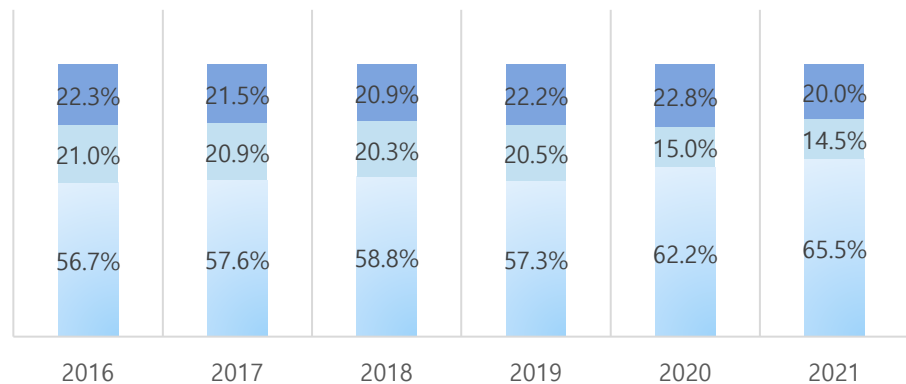
- 自給率推移：78.8%(16年) → 78.9%(17年) → 79.5%(18年) → 79.7%(19年) → 85.1%(20年) → 85.8%(21年)

2016～2021年 国内製鋼メーカーの鉄スクラップ需給現状 (単位：千t)

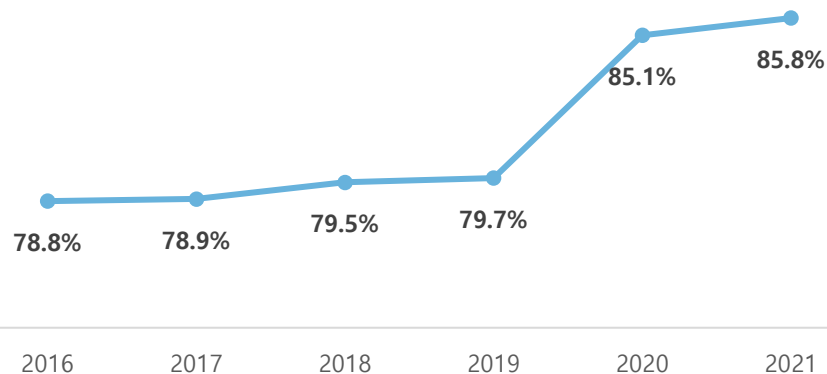
年	購入								自家消費		販売		月末在庫	
	国内購入		輸入		自家発生		計		量	前年比	量	前年比	量	前年比
	量	前年比	量	前年比	量	前年比	量	前年比						
2016	15,507	-3.8	5,739	-4.4	6,097	-15.9	27,343	-6.9	27,404	-8.2	8	-54.8	1,216	-4.1
2017	17,611	13.6	6,403	11.6	6,594	8.2	30,609	12	30,665	11.9	16	87.4	1,145	-5.8
2018	17,587	-0.1	6,091	-4.9	6,254	-5.2	29,932	-2.2	29,956	-2.3	25	57.9	1,098	-4.1
2019	16,447	-6.5	5,865	-3.7	6,352	1.6	28,663	-4.2	28,601	-4.5	9	-62.6	1,152	4.9
2020	16,099	-2.1	3,876	-33.9	5,891	-7.3	25,866	-9.8	25,831	-9.7	9	-1.2	1,178	2.3
2021	18,609	15.6	4,128	6.5	5,681	-3.6	28,418	9.9	28,296	9.5	26	188.8	1,267	7.5

2016～2021 鉄スクラップ供給源比率

■ 国内購入 ■ 輸入 ■ 自家発生



2016～2021年 鉄スクラップ自給率推移



2-2 鉄スクラップ需給見通し(2022)

2022年 鉄スクラップ需給見通し

□ 2022年 国内製鋼メーカーの鉄スクラップ需給見通し

○ 国内粗鋼生産量減少の見通し、鉄スクラップの海外輸出量減少：月末在庫下落 → 今後輸入量増加の可能性

- 1月～4月の輸入量 前年比 27.7%増加したが、自家発生量減少に伴う月末在庫減少

- 特に中国向けの輸出量が前年同期（1～4月）比 65.6% 減少(15,965t)

2022年(1～4月)国内製鋼メーカーの鉄スクラップ需給現状(単位:千t)

年	月	購入								自家消費		販売		月末在庫	
		国内購入		輸入		自家発生		計		量	前年比	量	前年比	量	前年比
		量	前年比	量	前年比	量	前年比	量	前年比						
2022	1～4月	6,193	-2.9	1,545	27.7	1,726	-11.5	9,464	-0.7	9,395	0.6	11	271.2	4,503	-11.5

2019～2021年 主要地域別 鉄スクラップ輸出量(単位:t)

国	2019年		2020年		2021年	
	量	比率	量	比率	量	比率
世界計	226,302	100.0	253,961	100.0	390,805	100.0
中国	35,765	15.8	19,499	7.7	106,292	27.2
日本	27,341	12.1	23,891	9.4	36,279	9.3
東南アジア	65,658	29.0	114,544	45.1	115,116	29.5
印度	86,989	38.4	85,070	33.5	125,027	32.0
その他	10,549	4.7	10,957	4.3	8,091	2.0

2022年 1～4月 主要地域別 鉄スクラップ輸出量(単位:t)

国	2020年			2021年			2022年		
	量	前年比	比率	量	前年比	比率	量	前年比	比率
世界計	72,979	-13.5	100.0	139,913	91.7	100.0	61,224	-56.2	100.0
中国	6,133	-69.1	8.4	46,393	656.4	33.2	15,965	-65.6	26.1
日本	5,920	-38.4	8.1	13,231	123.5	9.5	12,237	-7.5	20.0
東南アジア	27,073	32.7	37.1	42,710	57.8	30.5	16,127	-62.2	26.3
印度	31,098	3.3	42.6	33,456	7.6	23.9	16,085	-51.9	26.3
その他	2,755	-	3.8	4,123	49.7	2.9	810	-80.4	1.3



3

鉄スクラップ産業関連Issue

3-1 主要建設用鋼材動向

3-2 鉄スクラップ関連動向

3-1 主要建設用鋼材動向

鉄筋(棒鋼)、形鋼等建設用鋼材のマクロ環境による成長の鈍化

□ 2022年 国内建設用鋼材市場動向

- 21年以降鉄筋(棒鋼)、形鋼等関連製品需要が高いことや、ウクライナ戦争の余波等マクロ環境による成長が鈍化

□ 鉄筋(棒鋼)の現状

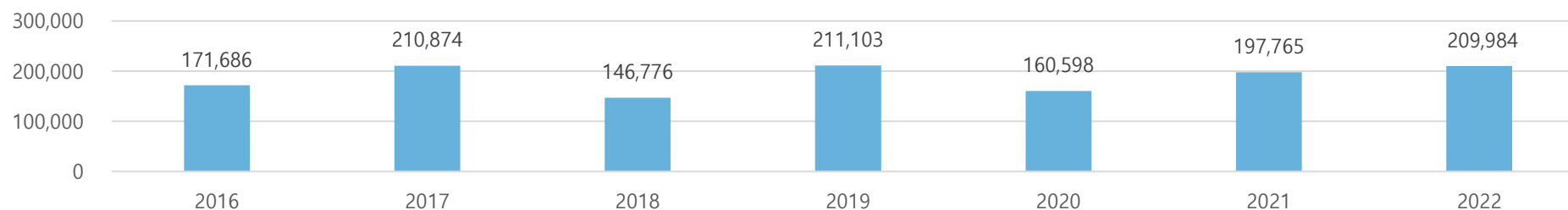
- 21年5月以降現在までの国内流通価格がトンあたり、100万ウォンを上回る
 - 鉄筋需給不安定の長期化で22年5月国内鉄筋流通価格がトンあたり140万ウォン記録(SD400/D10/現金販売価格基準)
 - 6月末、国内鉄筋流通価格がトンあたり124万ウォン記録(SD400/D10/現金販売価格基準)
 - レミコンストライキ及び各種費用上昇による一部建設現場の作業中止等の相互作用で最近の流通価格が小幅調整

□ H形鋼の現状

- 鉄筋と同様、21年5月以降国内流通価格はトンあたり100万ウォンを上回る
 - 22年4月H形鋼の流通価格は、140万ウォンを記録したが、最近上昇傾向に比べ小幅調整
 - 6月末国内形鋼の流通価格は、トンあたり135万ウォンを記録(SS275 / 小型 / 定期決済価格基準)
- 21年1~5月 H形鋼 輸入量 前年同期対比 6.2% 増加 (約 210千t)

年度別 1~5月 H形鋼の輸入量 推移

単位: t



3-1 主要建設用鋼材動向

主要建設用鋼材メーカーの動向

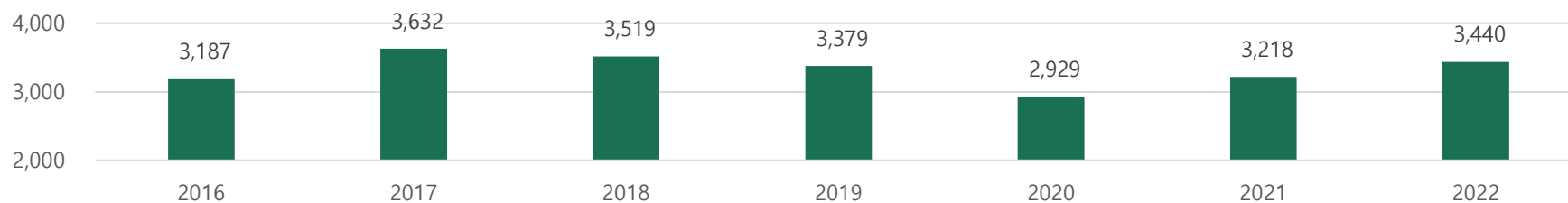
□ 建設用鋼材メーカーの生産動向

○ 鉄筋：2022年 1～4月 鉄筋生産量前年同期比6.9%増加

– 使用可能な設備は、最大稼働中、22年 第1四半期、新規鉄筋メーカー操業予定（年間生産能力100万t）

→ 今後、国内鉄筋生産量増加及びスクラップ需要増加の見通し

年度別 1～4月累積 鉄筋生産量の変化推移（単位:千t）

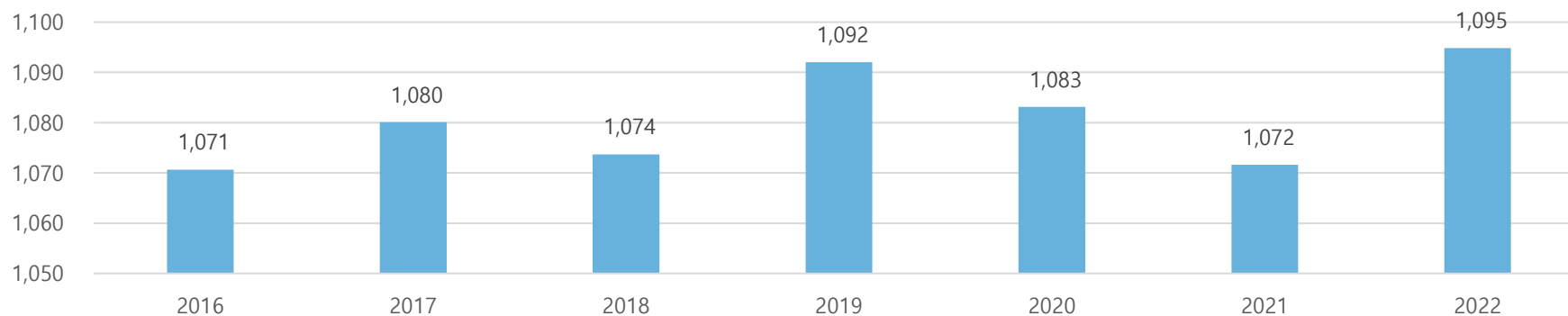


○ H形鋼：2022年 1～4月 H形鋼生産量 前年同期比小幅増加（約 2%）

– 国内需要増加したが、国内生産量前年比 小幅上昇に伴い輸入増加したものと分析

– 国内建設景気の上昇鈍化に伴い、前年並みの水準になる見込み

年度別1～4月 累積 H形鋼生産量の変化推移（単位:千t）



3-2 鉄スクラップ関連動向

鉄スクラップ関連動向

□ 放射能汚染鉄スクラップ関連動向

- 鉄スクラップ事業場内における放射能汚染鉄スクラップの長期間保管問題が継続
 - 放射能汚染鉄スクラップについて別途規程がないため、処分遅延が発生（5年間 約1,379kg）
 - 収集された放射能汚染鉄スクラップの発生源追跡ができず、処理がさらに困難になる。
- 「生活周辺放射線 安全管理法」改正に伴う現場教育及び指導点検の推進
 - 鉄スクラップ取扱業者監視機器の安全管理指針全面改正（21年4月）
 - 鉄スクラップの放射能検査業務の遂行手順改正に伴う現場教育及び指導点検の推進(22年 下)

□ 鉄スクラップ関連研究動向

- 鉄スクラップ分類基準(KSD 2101) 改正案導出
 - 鉄鋼業者-鋳物業者の鉄スクラップ購買基準及び市中取引基準の現状、海外標準の活用
- 鉄スクラップの安全的供給、品質水準向上のための鉄スクラップ供給及び需要構造分析の推進
 - 今後、鉄スクラップの国際取引が委縮し、輸入環境の悪化が予想される。
 - 鉄スクラップの販売、購買、取引現状調査による国内鉄スクラップ基礎データの取りまとめ及びDB構築方案の導出
- 鉄スクラップ産業生態系強化方案導出
 - 調査された鉄スクラップの需給構造及び海外の事例分析による制度改善と鉄スクラップ供給産業の革新力量の強化
 - 鉄スクラップの需要 -供給構造変化の要因と見通し、韓国の現実を反映する推定方法論の導出

□ その他

- 故意的な異物混入の禁止（申告センター運営等制度の改善と推進）
- 低級鉄スクラップの精製及び加工品質の向上
- 鉄スクラップの流通及び加工体制の改善





**THANK YOU
Q&A**

junghwan.lim@ekosa.or.kr

If you have any questions please send an e-mail